

# 第3回 首里城復興方針に関する有識者懇談会の概要について

- 1 日時:令和2年3月12日(木)13時00分～16時00分 (場所:沖縄県自治研修所 8階 特別研修室)
- 2 出席者:8名 1. 安里 昌利(那覇空港ビルディング(株)／代表取締役社長) 2. 池田 孝之(国立大学法人琉球大学／名誉教授)
3. 下地 芳郎((一財)沖縄観光コンベンションビューロー／会長) 4. 崎山 律子(那覇市文化協会／会長)
5. 佐久本 武((一社)那覇市観光協会／会長) 6. 田名 真之(沖縄県立博物館・美術館／館長)
7. 玉那覇 美佐子(首里振興会／理事長) 8. 波照間 永吉(名桜大学／教授)

## 3 主な意見

主な議題	主な意見
(1) 正殿の早期復元と段階的公開	<ul style="list-style-type: none"><li>火災の瓦礫や残骸が残されているが、何らかの形で展示として見せる必要がある。県はどのように考えているのか、姿勢を見せてほしい。</li></ul>
(3) 文化財等の復元及び収集	<ul style="list-style-type: none"><li>伝統工芸品を修復できる環境整備が県内では遅れている。海外に散逸した沖縄伝統工芸品の修復拠点とすることも見据えて、修復の技術者養成を位置づける必要がある。</li><li>復元にあたってはレプリカ／模造復元の区分があることを意識する必要がある。</li></ul>
(4) 伝統技術の活用と継承	<ul style="list-style-type: none"><li>沖縄県、那覇市、(一財)美ら島財団では復元技術を蓄積しており、その継承も含めて連携して進めるべきである。</li><li>庶民にも手が届く商品開発が必要。そのためには全庁体制で議論すべき。</li></ul>
(5) 琉球文化のルネサンス	<ul style="list-style-type: none"><li>総花で抽象的な内容のため、首里城復元との結びつけが課題。取組項目と有機的につながった取組を県が主体的にやらないと、県民にもわかりにくいものとなる。</li></ul>
(6) 世界遺産としての首里城を中心とした歴史的環境の創出	<ul style="list-style-type: none"><li>収蔵庫は城郭外にした方がよいが、離れた場所ではなく首里城近辺が望ましい。</li><li>中城御殿、円覚寺、御茶屋御殿等の復元を求める機運が高まっている今、基本計画での展開、首里杜構想の実現も見据えて、基本方針に固有名詞を掲載したほうがよい。</li><li>周辺文化遺産の発信を強化する必要がある。首里古地図と現代地図の比較、古写真等による情報発信の仕方も検討すべき。ICTのさらなる利活用も方針に盛り込めるとよい。</li></ul>
(7) 歴史の継承と資産としての活用	<ul style="list-style-type: none"><li>32軍壕公開の要望が高まり続けている。もう少し検討が必要。</li><li>継承の取組を具体化する必要がある。学校教育では限界があるため、夏休みを利用し、小中学校生に県主体で首里城を学ぶ講座を実施しては。まずは地元の子どもたちを中心に取り組み、全県にまで広げていただきたい。</li></ul>
(8) その他	<ul style="list-style-type: none"><li>首里地域は首里城焼失に心を痛めており、ボランティア等の声掛けがあれば協力すると思う。旗頭などで復興をアピールすることも可能である。</li><li>基本計画は5年ごとの目標をつくってもらえると県民にわかりやすい。</li></ul>